

私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

発行者：鈴木英二
 発行所：私立短期大学図書館協議会
 〒215 川崎市麻生区東百合丘3-4-1
 調布学園女子短期大学図書館内
 電話(044-966-9211~3)
 編集者：川井・菅原

1990. 3. No.26

A. 23

'90年代へのメモランダム

会長 鈴木英二

1990年代は激動の時代といわれる。昨年6月、天安門事件に端を発した中国の動乱は、何とか体制維持の方向で収束をみたが、ベルリンの壁崩壊に象徴される東欧共産圏諸国の一党独裁体制の変革は止まるところを知らない。EC諸国の統合も90年代半ばごろには何らかの結末がつきそうだという。このような状況を踏まえ、政治・経済面での90年代、ひいては21世紀へ向けての専門家による展望・推測が各種のメディアを賑わしている。

では、ということではなからうが、短期大学図書館にとっての90年代はどんな時代になるのだろうか、展望を試みてほしい、というのが編集子からの依頼である。これはなかなかの難題である。第一、教育や図書館などの問題についてはドラスティックな変革など考えられないのではなからうか。そこで、近ごろ考えていることにくっつかを雑感として述べさせてもらうことにする。

昨年臨時教育審議会は、21世紀へ向けて日本は生涯学習社会を旨すべきであるとした。これを受けて文部省は、早速社会教育局を生涯学習局と名称を改めるとともに、筆頭局に昇格させ、生涯学習推進への積極的な意欲を示した。具体的な取組みについては今後の取組みに期待したいが、生涯学習に果たす図書館の役割を十分に理解されて、図書館、なかんづく公共図書館の設置・充実について効果的な施策を講じてほしいものである。生涯学習のための公的施設には、公民館、博物館、美術館

などさまざまあるが、公共図書館こそその中核的な施設だからである。と同時に、図書館がその機能を果たすためには、必要にして十分な数の司書が配置されなければならない。図書館業務の外部委託のすべてを否定するものではないが、図書館法の理念を十分に活かすためには、司書養成の方法を再検討するとともに、専門職制度の確立にも積極的に取り組んでほしいものである。

短期大学図書館は発足以来40年、着実に充実・発展を続けてきた。その背景には公短図協、私短図協、日短協、東短図協の各図書館研究委員会、および日図協短大図書館部会の地道な活動があったことを忘れてはならない。400館余の短大図書館界に5つもの似たような組織があることについて、屋上屋を重ねるものとの意見があることは事実である。しかしそれぞれ設立の基盤が異なり、それなりの経緯もある。各組織がそれぞれの設立の趣旨にもとづいて独自の活動を展開してきたことが館界全体のレベルアップに寄与してきたわけで、今後とも連絡をより密にし、事業の調整を行いそれぞれの独自性を発揮することこそが大切であろう。

いわゆる18才人口は現在のところまだ増加傾向にあるものの、'90年にはピークを迎え、その後漸減を続け21世紀初頭にはピーク時に比べ50万人も少ない150万人まで落ち込むものと見られている。このことは短期大学その

ものの存亡にかかわることで、すでにサバイバルに向けてさまざまな対策が講じられていることはよく知られているとおりで。一方、私学への国庫補助は行政改革のおおりの受け、今後とも多くは期待できない。

このような状況から、経営者が経費の節減を図ることは当然予測されることで、これが図書館にどのような影響を及ぼすかである。魅力あるキャパス作り、教育環境整備の一環として、新館の建設は90年代にも続くであろうが、資料費の伸び悩み、あるいは人件費の節約から必要な職員の確保に悪影響が出てくるのではないかが心配される。大学教育における図書館の役割を考えると、このような心配をしなければならぬことは悲しいことで、これが杞憂であることを念じたい。

日短協が昨年発表した「短期大学図書館改善要項（'89年版）」は、もちろん短大図書館のレベル・アップを図ることを目的としているが、レベル・ダウンを少しでもくいとめるためにも、これを適宜活用したいものである。

筆者の勤務する短大では昨年6月、全学生を対象に読書と図書館の利用に関するアンケート調査を実施した。

その結果判明したことの一つは、予測されていたことではあるが、学生は短大の図書館に対して必ずしも学習のための資料だけを求めているのではないということである。学習関連の資料を求めるのは試験期間中や、レポートや課題が出された時であって、日常的にはヤングアダールとしての読書興味を満たすに足るファッションや料理の雑誌であり、通俗的な読みもの、例えば赤川次郎や村上春樹、吉本ばなななどの一連の作品である。

約63%強の学生は、「殆ど」「全く」図書館を利用しないか、試験中やレポート・課題が出た時だけの利用者である。これらの学生にとって平常時は、読みたい雑誌もおもしろい本もない短大の図書館など全く無縁の存在である。そして、読みたい本は公共図書館に頼り、あるいは友人から借りてすませばよいわけである。つまり、多くの学生は短大図書館とほとんど無縁の生活を送っている

わけである。

短大の図書館は、このような学生にどのように対処したらよいのであろうか。縁なき衆生としてバツサリ切り捨て、相手にしなくてよいのなら問題は簡単である。しかし彼女らは学生であると同時に、20才そこそこの若い女性としての生活者でもある。その生活者としてのニーズを全く無視することが果たして妥当であらうか。かといって筆者は赤川次郎や水室冴子などの作品や「アン・アン」「ノンノ」をおくべきだといっているのではない。短大の図書館をもう少し魅力的なものとし、よりよい読書の世界へ導く必要を感じているだけである。これは蔵書構成や選書の問題というよりも、読書指導の問題かも知れない。

調査の結果、図書探索のイロハも理解していない学生が多いことも明らかになった。開架書架上の本をさがすとき彼女たちの多くは、「見当をつけて」書架の前に立つのであるが「本の並び方が分らない」ため困惑し、ゆき詰まってしまう。そこで目録の存在に気づき、検索しようとするのだが、その「ひき方が分らず」、運よく求める本のカードをひき当てたものの「請求記号」を知らないため、その本がどの書架のどこにあるのか分らない、といった学生の姿が明らかになった。これでは各種の書誌を利用しての文献探索など思いもよらないことである。

レファレンス・サービスは図書館業務のなかで最重要業務といっても過言ではない。短大図書館の職員としても今後さらにレファレンス担当者としての資質を高めることが求められる。短大協の「参考業務と書誌」の研修のねらいもここにある。また学生の図書や図書館の利用についての知識や技術の指導のためには、入学時のオリエンテーション指導にとどまらず、教員と密接に連絡をとりながら、「利用指導」を実施しなければならない。日短協短大部会の「ワークショップ報告書」などを参考に十分な研究をした上で実施することが望ましい。これらはいずれも90年代の課題である。

◇◇平成元年度全国研修会開催◇◇

参考業務と書誌 — 国際文化および食物栄養 —

をテーマに講義と演習

日時 平成元年11月16日（木）～17日（金）

会場 全水道会館（東京 水道橋）

テーマ 参考業務と書誌

講師 間苧谷 栄氏（亜細亜大学経済学部教授）

東田 全義氏（慶応義塾大学三田情報センター）

三神 典子氏（神奈川県立栄養短大図書館）

参加 72名

主催 私立短期大学図書館協議会

第1日目安部登巳氏の司会で、まず鈴木英二会長から開会の挨拶があり、2日間の日程のオリエンテーションの後、講師の先生方による講義が行なわれた。会長は、学生を図書館に引きつけ、利用を伸ばすためにも、図書館員が技術を身につけ、援助の力を発揮すべきだとして資料をより深く知るこの研修会の意義を述べた。講義内容は間苧谷氏の「国際理解」の理論的側面、東田氏三神氏によるそれぞれ、「国際文化」「食物栄養」の基本的な概説と文献（とくに書誌）についてで、要旨は下記のとおり。なお、各講義の詳しい内容は「短期大学図書館研究第10号」に掲載される。2日目、参加者は二つのグループに分れ、与えられた課題について、あらかじめ会場に用意された各種の書誌類を使って実践的な研修を行った。最後に12題の演習問題の解答を代表者が発表し、評価と指導を受けた。

また、例年のように、5時30分からは懇親会が水道橋グランドホテルで開かれ、歓談の輪が広がった。

◇国際理解と書誌

間苧谷 栄氏

1. 国際理解の三つの側面
2. 異文化理解：エスノセントリズムと文化相対主義
3. 地域研究：話す〔地域言語〕・知る〔地域知識〕・感じる〔地域作業〕
4. 国際化と学際化：国際関係論、地域研究

理論的専門化→実践的専門化（理論的総合化）

5. 国際関係学部・学科のカリキュラム

6. 文献検索、図書選定の道具

1. 国際理解の三つの側面：

- ◆国際理解：互いに相手の生き方、文化を知ると同時に、相手にも自分の生き方、文化を知らせ、互いに相手の立場、生き方を尊重し、思いやる心が不可欠である。

◆国際理解の三側面：

1. 自らの文化（生き方）を相手に知らせる
2. 相手の文化（生き方）を知る〔地域研究〕
3. 自らの文化（生き方）を知る（再認識する）
2. 異文化理解：エスノセントリズムと文化相対主義
「日常の慣れ親しんだ世界への安住、それと異なるものに接した時の不快感・違和感といった、意識に明瞭にのぼらないかもしれないような態度」を「エスノセントリズム」（自民族中心主義：自文化中心主義）と呼ぶ。



「熱心に演習に取り組む参加者達」

3. 地域研究

◆地域研究の三つの要素：

1. 話す—地域言語の修得
2. 知る—地域知識の獲得
3. 感ずる—地域作業の推進

◆地域研究は「学際的総合研究」である。(図書館との関係)

4. 国際化と学際化：

◆理論的専門化

◆実践的専門化(理論的総合化)

関係文献

ルース・ベネディクト『菊と刀』

クライド・クラックホーン『人間の鏡』

関本照夫「文化の違いを見る目の違い」

松園万亀雄「自民族中心主義」

河部利夫『外国学ことはじめ』

大塚久雄「社会科学を学ぶことの意義について」

『海外文献検索の手引き—必要とする資料をいかにして探すか』(亜細亜大学図書館, 1983)

◆国際文化と書誌

東田全義氏

1. 主題としての国際文化

最近、国際化の必要性が叫ばれ、新設の学部学科も増えてきている。これに対して図書館はどう対応していくのか。既存の図書館ではピッタリした資料もなく、大学での国際文化の主題もあいまいなまゝ国際化が進んで外国人との交流も盛んになってきている。

「国際文化」というつかみどころのない言葉を理解するのに「外国学ことはじめ」(河部利夫, 玉川大学出版部, 1979)が役に立つ。つまり、二つの文化の接触による文化摩擦、カルチャーショックを減らすのが目的でこういう学問が出てきたのであり、文化の接触の仕方、文化変容の受容の形態の手がかりとして、まず外国の文化を知る(理解し、研究し、発見する)ことが大事であるとしている。

2. 比較研究と地域研究

実際に、外国文化を知ろうとする学生→教員→研究者→比較研究→研究方法論→国際比較の流れの中で図書館に対する具体的な要求は高まっている。また、アメリカで発達した地域研究は、フィールドワークを持った総合研究から特殊性を引き出すもので多くの外国人地域研究者がいる。しかし、書誌としてまとまっているのは途上国(アジア, アフリカ, 東欧等)くらいで、図書館のレファレンスサービスが重要になってきている。

3. 主題の地理区分と地域の主題分類

慶応大学の地域研究センターでは、地名から文献を引き出すことが出来ないか試みたがカード化も難しい。外国書誌には、H R A F (Human Relation Areas File) P A I S (Public Affairs Information Service)があり、両方を見るとかなり拾える。また機械検索も使い得る。

4. 既存書誌へのアプローチ(総合書誌と特殊書誌)

日本語による最近の国際文化に関する文献というと、「アメリカ研究邦語文献目録1~4」(東京大学出版会, アメリカ研究資料センター)が唯一の文献である。概念的にとらえていくには、全国書誌, 全国書誌をもとにした様々な書誌, 政府刊行物目録, 雑誌論文, 学位論文, 地方出版物, A V資料等を使うことによって、文献の総体のおさえ方がみえてくる。

◆食物栄養と書誌

三神典子氏

講義テーマについて、文化的な側面を除いた「食生活の中の栄養」という限定のもと、又、利用者についても、短期大学図書館を学習図書館ととらえた場合の機能上の性格から、主に学生を対象としての参考業務と限定された。

まず、栄養学についての分析の中で、栄養学とはいかなる学問であるか。つまり「栄養に関する真理を明らかにし、それを食生活や医療の場に応用し、健康の維持増進や回復をはかる学問である(木村修一)」そして、その領域は、食品学分野, 調理学分野, 生理学・生化学分野などの基礎的栄養学と各論にあたる病態栄養, 妊産婦栄養, 小児栄養, 老人栄養, 特殊な状況下の労働栄養, スポーツ栄養などである。又、栄養学を歴史的にみると、各時代の社会的背景による要請(改善・指導等)の強い極めて社会的な学問である。次に「参考業務と参考資料」についての一般的な講義の後、この分野における参考業務では、カレントな雑誌論文が有効な参考資料となる。しかし、市販の栄養学関係索引誌の単独のものではなく、これらの状況の中で、十分なレファレンスを行なうには、自館で作成した索引を持つ必要が生じることを強調された。講師の図書館では、昭和50年より今日迄、受入雑誌を対象とした『栄養学関係雑誌記事索引』を作成されており、極めて今日的質問に対しても即座に資料を提供できる体制をとっているとの報告があった。最後に栄養学を学ぶ上での主な参考資料(以下にかかげたもの)について解題がなされた。

①科学技術文献速報—化学・化学工業(国内)編 ②

医学中央雑誌 ③食品と技術 ④体力医学文献目録

⑤臨床栄養文献総覧 ⑥日本ビタミン文献集 ⑦日本

(次のページへつづく)*

地区活動報告—25号以後—

<北海道地区>

<総会>

全道各地から8館18名が出席し、5月8日下記のとおり開催された。

日時 1989年5月8日 13:30~15:00

会場 静修短期大学LIM

議事 1 昭和63年度事業報告

2 昭和63年度決算報告ならびに監査報告

3 平成元年度事業計画案

4 平成元年度予算案

5 役員改選

会長(北星学園女子短期大学附属図書館長黒川武)のみ選出。他の役員については会長校一任。

6 加盟館の脱会届

岩見沢駒澤短期大学の廃止に伴い、脱会届受理。

<役員会>

今年度は役員改選年につき、引き継ぎ等から第1回は旧役員で開催し、第2回は新役員で開催された。

I 第1回役員会

日時 1989年5月8日 11:00~12:00

会場 静修短期大学LIM

議事 総会に先立ち、総会の運営について打合せを行う。

II 第2回役員会

日時 1989年6月29日 11:00~12:00

会場 北星学園女子短期大学

議事 1 私立短大図書館協議会役員会及び総会報告

2 北海道地区図書館連絡会報告

3 北海道地区逐次刊行物総合目録補遺版の配布等について

4 会費値上げについて

5 事業計画の検討

6 その他

<研修会>

全道各地から関係者15館27名が参加し、11月10日下記のとおり開催された

日時 1989年11月10日 10:00~16:00

会場 北星学園女子短期大学

1. 挨拶・私立短期大学北海道地区協議会議長(北星学園女子短期大学図書館長) 黒川 武
・会場校北星学園女子短期大学学長塩谷 鏡

2. 研修会

- ・テーマ「私立短期大学図書館の利用指導—現状と今後—」

・事例発表

利用指導実施例1 釧路短期大学図書館

利用指導実施例2 北星学園女子短期大学

- ・アンケート調査報告(加盟館に於ける利用指導の実態)

- ・利用指導の時間確保について等の意見交換

・見学

札幌学院大学図書館—利用指導の実状と施設見学—

3. 懇親会

希望者のみ参加19:00解散

<その他>

「逐次刊行物目録補遺版—北海道地区協議会加盟館所蔵—」を1989年7月に発行し、加盟館あて7部ずつ送付した。尚、前回配布先への案内は1989年3月予定。

<東北地区>

<平成元年度総会及び研修会>

日時:平成2年1月20日(土)13:00~16:30

会場:仙台白百合短期大学(宮城)

出席者:10館17名他にオブザーバー(未加盟館)

2館2名

(総会)

議事

* 科学技術史大系 ⑥食糧問題文献解題 ⑨厚生 の指標
⑩改訂日本農業基礎統計

又、特にこれからの参考業務の中では、直接質問に應じる業務の他に索引などを作成し、自館資料を整備する機能が大きな比重をもつようになるのではないかということを指摘された。

1. 昭和63年度決算報告及び会計監査報告
2. 平成元年度予算及び事業計画について
3. 次期理事館、幹事館、監事館選出について
4. 学術雑誌目録刊行について
5. その他

今後役員館は全加盟館の持ち回りとなり、事務局案が承認された。平成2、3年度は理事館が尚綱女学院短期大学、幹事館は羽陽学園短期大学、監事館は聖和学園短期大学と仙台白百合短期大学がそれぞれ選出された。また、理事館に対する交通費の補助が承認された。

(研修会)

テーマ：

「利用者にとっての魅力ある図書館づくり」

講師：宮城清氏（仙台白百合短期大学図書館長）

講師の宮城氏は、東北地区の短大図書館の指導者として常に第一線に立ちこられた方である。氏の図書館に寄せる思いが見事に結実したともいえる仙台白百合短大の図書館をくまなく紹介しながら、現場と直結した理論をわかりやすく展開していただいた。施設、設備は勿論蔵書の装備から貸出に至るまで細やかな心配りが随所に感じられ、小規模館の持つアットホームな暖かさが伝わってくる図書館であった。前年度の研修会で、利用者レベルにたったきめ細かいサービスをしていかなければならないことを認識させられたが、今回はそれをさらに具体化したより実践的な研修会となった。

<雑誌目録の刊行>

懸案だった「雑誌目録」がようやく完成した。東北地区では初めての試みで、今後「補遺版」の刊行も考えていきたい。

『学術雑誌総合目録』平成2年1月20日発行

収録範囲 1989年6月現在
参加館 全加盟館（14館）
収録誌数 752誌（45P）

<関東・甲信越地区>

○合宿研修会の開催一栃木県足利市にて（10月16・17日）

恒例の合宿研修会（第5回）が、足利市にて開催された。メインテーマは、「利用指導の諸問題」で、午後の部でパネルディスカッションと文献指導の模擬を行い、夜の部で自由討議を行い、現場における問題点を洗い出した。参加者は、32名。翌日の見学研修は、足利文庫と栗田美術館（伊萬里焼、鍋島焼専門）。

☆次回のテーマと開催地が決定

- ・テーマ「21世紀の図書館を語る」
- ・開催地「茨城県水戸市（大洗付近宿泊）」

・語る内容：AV資料等非図書資料の諸問題

○幹事会

第三回、7月21日（金）（日販ビルキャフェテリア）

議題：①第5回合宿研修会について ②新旧幹事引き継ぎについて

第四回、9月29日（金）（目白学園）

議題：①第5回合宿研修会について ②名簿刊行について ③その他

○名簿の刊行（10月12日）

1989年版関東甲信越地区の名簿「図書館&図書館員名簿—5月調査—」の刊行。16ページ。

○会報刊行（12月4日）

関東甲信越地区協議会々報第10号を刊行。内容は合宿研修会報告が中心。

○会勢93館

新規加盟館：カリタス女子短期大学図書館

<東海・北陸地区>

1. 平成元年度第3回幹事会

日時：平成元年9月14日（木）A.M. 11:00~P.M. 3:00

場所：東海学園女子短期大学図書館

出席者：9校13名

議題：(1)平成元年度研修会（10月20日開催）について

(2)会報第21号の編集方針について

—約70ページ・約150部・平成2年3月発行予定

(3)その他

2. 平成元年度研修会

日時：平成元年10月20日（金）A.M. 9:45~P.M. 3:10

場所：敦賀女子短期大学

出席者：27校43名

<懇談会>

研修会の前日19日（木）P.M. 6:00より福井厚生年金健康福祉センター「サンピア敦賀」にて懇談会を設定。各館の交流・情報交換を目的とし、37名の参加者を得て盛大に開催された。

<講演会>

会長（東海学園女子短大図書館長）・小形一男先生、敦賀女子短大図書館長・岩淵富治先生の開会挨拶に続き、敦賀女子短大大学長・瀬戸内寂聴先生の講演に入る。

「読書と人生」を演題として、先生の豊かな人生経験・旺盛な執筆活動を中心に、1時間余りにわたってお話しいただく。

<研修会>

6月に開催した平成元年度総大会の研究テーマ「図書館における機械化の実際」を引き継ぎ、今回は丸善株式会社より専門家2名を招き「図書館の機械化」に関する質疑応答に加わっていただく。昼食・敦賀女子短大図書館見学をはさみ、午後からは管理運営部会(17名)・実務担当者部会(26名)の2つの分科会に別れ、それぞれの立場から機械化について検討する。

平成2・3年度会長校の名古屋短大・平成2年度総大会会場校の洗足学園魚津短大・平成元年度新規加盟校の中部大学女子短大の紹介に続き、会長の閉会挨拶で、午後3時すべてのスケジュールを終える。

3. 平成元年度第4回幹事会

日時：平成元年12月7日(木)A.M. 11:00~P.M. 3:00

場所：東海学園女子短期大学図書館

出席者：8校13名

議題：(1)平成元年度研修会の反省

(2)会報第21号の編集方針について

—内容・執筆者を選定。

(3)その他

・平成2・3年度幹事校の選定について

・平成2年度総大会について

—洗足学園魚津短大にて平成2年6月22日(金)に開催することを承認。

4. 会報No21編集発行

平成2年3月15日付で会報No21を編集発行。

年間活動記録を網羅し、今年度の研究テーマを背景に特集として「コンピュータ導入校の現状報告」を掲載し、さらに研修会での瀬戸内先生の講演記録を掲載した。

<近畿地区>

<第22回研修会>

小規模図書館で利用されているパソコンソフトとCD-ROM(近畿地区でよく導入されているソフトを中心に)一デモ及び実習一

日時：平成元年10月2日(月)9:00~16:30

場所：大阪女子学園図書館

参加者：加盟館 35館 49名

未加盟館 3館 4名

その他 9名

合計 38館 62名

<第23回研修会>

データベース「日経テレコン」見学実習

日時：平成2年1月13日(土)13:00~16:00

場所：日本経済新聞社大阪本社総合情報部

参加者：加盟館 26館 46名

未加盟館 0館 0名

<幹事会>

第4回：平成元年9月19日(火)9:00~13:00

第5回：平成元年11月21日(火)9:00~13:00

第6回：平成2年1月25日(木)9:00~16:00

<中国・四国地区>

前回の報告以降特別な地区活動は行なわれなかったが平成2・3年度の役員校については申し合せ事項の通り広島地区加盟館の協議により以下の館が選出された。

・会長館 広島女学院大学短期大学部図書館

幹事館 広島文化女子短期大学図書館

監査館 ノートルダム清心女子短期大学図書館

<九州地区>

1. 平成2年度の協議会・総会・研修会の日程並びに、研修会の内容について当番館と協議

A. 日時 平成元年10月27日(金)

B. 場所 別府女子短期大学

協議の結果、標記については4月19日(木)別府市つるみ荘で実施することに決定。

2. 加盟館(31館)の館員名簿を9月に調査し、11月に配布。

3. ニューズレターNo11を発行・配布(銀杏学園短期大学)

4. その他

A. 会報、「短期大学図書館研究 第9号」等加盟館へ配布

B. 会費徴収と本部送金

C. 会報原稿依頼

D. 平成元年度 全国図書館大会 於 宮崎市
第4分科会(短大部会) 宮崎女子短期大学 担当

—事務局報告—

○会勢(平成2年2月28日現在)

北海道 17 東海・北陸 41

東北 14 近畿 65

関東・甲信越 93 中・四国 28

九州 31

総計 289館

○新規加盟館

①カリタス女子短期大学図書館

〒227 横浜市緑区あざみ野2-29-1

☎045-901-5133~4 連絡先:向田和子(司書)

②中部大学女子短期大学附属図書館

〒487 愛知県春日井市松本町1200

☎0568-51-1211 連絡先:塩見廣子(司書主任)

○住所(表示)変更

東海学園女子短期大学

(新) 〒468 名古屋市天白区中平2丁目901番地

○校名変更

松山商科大学短期大学部→松山短期大学

茨城キリスト教短期大学→シオン短期大学(9.0.4~)

<本部役員会>

第4回

日時:平成元年9月26日(火)14:00~17:00

会場:日本図書館協会

議題:

①平成元年度短期大学図書館全国研修会の件(継続)

②『短期大学図書館研究』10号の件(継続)

③会報26号の件

④その他

第5回

日時:平成2年1月27日(土)16:00~18:00

会場:河津七滝温泉「つりばし荘」

議題:

①『会報』26号の件

②『短期大学図書館研究』10号の件(継続)

③次年度活動方針の件

④その他

<平成2年度活動(予定)>

4月 『短期大学図書館研究』10号発行

5月 年次総大会

9月 『会報』27号発行

11月 短期大学図書館全国研修会「参考業務と書誌」

3月 『会報』28号発行

上記のように、定例的な活動を予定しています。

その他の活動について、御要望・アイディアをお聞かせ下さい。

皆様の館の最新情報を積極的にお知らせ下さい。

人事、施設、電算化、新企画など何でも結構です。

会報の記事に採り入れたいと思います。

<注>平成2年度より、会費が¥10,000となりますのでご留意下さい。

紀要

「短期大学図書館研究 第10号」内容紹介

特集 「収書に関する問題」

・短大における資料収集の現状

林 幸和(愛知女子短大)

・読書・資料要求調査からみた短期大学図書館における
選書

前川和子(大谷女子大)

・選書の実際—小規模短大図書館の例として

西田清子(日本キリスト教短大)

・推薦図書めぐって

飯沼三和子(昭和女子大)

・「短期大学図書館における選書の実際に関する調査」
結果について

網本正巳(調布学園女子短大)

・「短期大学図書館における特殊コレクション調査」を終
えて

菅原春雄(文教大学女子短大部)

論稿

・図書館のAVについて—視聴覚資料の活用について

木村昭一(大阪電気通信大学)

・北海道における新聞縦覧所資料再考

谷口一弘(北海道教育大学)

・「自由宣言」における知る自由の検討—知る権利との
比較を通して

中村克明(文教大学女子短大部)

・海外の大学図書館を訪ねて:1982~1989—管理,コ
ンピュータ,国際関係

岡谷 大(東京農工大学)

・アメリカにおける隔離公共図書館の歴史

神崎政美(田中千代学園短大)

・レファレンス・ブック研究—その2:百科事典

レファレンス・ブック研究会

CD-ROM散策 第2回

・青葉学園短期大学におけるJ-BISCの活用につ
いて

宮内美智子(青葉学園短大)

第7回全国短期大学図書館研修会報告

・国際理解と書誌

間学谷栄(亜細亜大学)

・国際文化と書誌

東田全義(慶応義塾大学)

・食物栄養と書誌

三神典子(神奈川県立栄養短大)

◀編集後記▶

会報26号をお届けします。いよいよ20世紀最後の10年
がスタートしました。世界情勢も殊のほか揺れ動いてい
ます。巻頭の鈴木会長の一言一言にうなづきながら、短
大図書館が持っている課題についてあらためて考えさせ
られました。新時代の図書館に向けて、短大図書館得意
のきめ細かい実践が期待されます。

今号は特集も一覽もなく、ページ数が少なくなりま
した。次号はもっと変化をつけたいと思っております。